
能力ーcodeー

死霊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

能力code1

【Nコード】

N7315P

【作者名】

死霊

【あらすじ】

成績が悪いでもサボっていたわけでもない僕がなぜか夏休みに補習を受けるはめに。

しかも試験といわれ変な所に連れてこられたり、下手したら死ぬような試験や下手しなくても死ぬような試験を受けさせられる。

しかも隠していた能力をなぜか知っていたり隠し持っていた道具やおやつも試験管の腹の中に。

俺どうなるの……

プロローグ（前書き）

初めての連載小説です
まあ読んでみてください

プロローグ

プロローグ

太陽のせいでもう人どころか地球まで溶けるのではないかと思って
しまう程暑い夏

長くて楽しい夏休みがまっているはずの夏は担任の教師の

「補習でえーす」

という悪魔の判決のせいで無駄に長くて苦しい夏休みが変わってしま
った。

もしそれが勉強ができないやさぼっているならまあしょうがないか
と納得するのだが俺は自分でいうのもあれだが、授業は受けてるし、
勉強もできる。

補習を伝えられたときなんでだーと叫びながら教師につめよったの
は当たり前前の行動だろう。

しかし担任に聞いても

「理事長が補習と言った」

の一点張りでなにもわからない。

それで結局諦めて家に帰った。

理由はわからんがなにかがあるのは間違いないだろう。
補習が始まるのは夏休み初日からだ。

「なにもなければいいがな」

そう心の中で祈りながら俺は床に着いた。

プロローグ（後書き）

誤字脱字、その他至らぬところがあれば報告おねがいします

えっ此処って理事長室だよね（前書き）

えっ此処って理事長室だよね

俺 黒木修は一般的な高校生で成績もまあ悪くない筈なのに何故か補習を通達され、夏休み初日で『昼まで寝てるぜ!』的テンションにも関わらず学校に来ていた。

いつもなら平気の学校前の坂だが、今日は何故かとても体が重く感じ坂を上りきる頃にはもう息も絶え絶えになっていた。

少し休んでから教室に行くと、担任が俺に向かって

「お前、今から理事長室に行け」

と言われて渋々理事長室に行く。

そして

理事長室を開けるとそこは草原でした。

某旅行番組風に思ってみる。

いやいや

ありえないから

何故理事長室が草原

一度扉を閉めて心を落ち着かせてからまた開ける。

確かに草原ではなかった。

だが

荒野だった。

何で荒野

草原の草はどうしたんだ。

現実逃避に的の外れな疑問を持つ。

また扉を閉める。

この状況をどうすればいいのだろうか
中に入る?

どうなるか分からない

人を呼ぶ?

違えばかなり痛い人だ

なら

逃げる？

うんそれだ

それしかない

俺は其の時音速を超えた

何処かの目に盾を付けたアメフト選手の比ではないスピードで逃げた。

だがしかし

失敗だった。

本当に

もう超常現象と言ってもいいかもしれない。

「なんで逃げたら同じ所に戻ってくんだよ おおおおおおおお
おおお」

叫んだ。

どうすればいいのだろうか

どうしたらこの危機を乗り越えられるのだろうか
取りあえず理事長室に行こう。

そして理事長室を開けたら

手術室だった。

「なんでええええええええええええええええ」

普通草原↓荒野と来てるんだから砂漠とかだろ
何で手術室

どんな脈略があるの

まあ仕方がない

恐る恐る入ってみる。

だがこの判断は間違いだつた

あの時の俺を殴ってやりたい。

俺は窓を割ってでも出るのが正しかったんだ
いや窓を割ったとして出れるのか

まあどんな手を使っても出るのが正しかった。

なんせ俺は

「ようこそ」

悪魔の住処りふじんなものたちに足を踏み入れてしまったのだから。

えっ此処って理事長室だよね（後書き）

暑いです

いくら冬だからといっても

暖房器具をガンガン付けまくるのはいかなものでしょうか
逆に暑くなると思うのですよ僕は

家族に一人寒がりがいるだけで

暑いのが苦手な僕まで被害にあうのは結構大変です。

そして暑さから逃れるために自分の部屋へ行けば

「自分の部屋にこもってんじゃないの」

と母に言われ

お前らのつていうか貴様の所為じゃぼけえって言いたくなります。

実際言ったらご飯作ってもらえないけど

以上つまらない愚痴を聞かせてしまい申し訳ありませんでした。

それはだめだろう

「ようこそ」

なんやかんやで理事長室と言う名の手術室に入ってしまった俺はいきなり『ようこそ』なんて言葉をかけられた。

声のした方向を向くと……

見なかったことにしたい。

本当に見なかったことにしたい。

いや見なかったことにしていいよね。

よしみなかったことにし「どうかしましたか」出来なかった

声の主はロボットだった。

それが漫画に出てくる機動戦士や耳がある丸いロボットだったらどれだけ良かったろう。

しかしそれは……

がちりとした体形の男が他型でさらに手術衣を着ている。

それだけならいい

いやそれだけであってほしかった。

だが手術衣は血まみれでさらに指はドリルのようにギュルルルルウウとうなりを上げている。しかも眼は見開かれていて血管を模してあるだろうそれは浮き出ていて真っ赤さらには口裂け女も顔負けと言うぐらい口が裂けていてその中に歯であろう物体がドリルのようにうなりを上げていてなんというか口を閉じたらドリルで口の周りを削ってしまいそうだな。

なのに

「どうかしましたか、大丈夫ですか」

何で紳士的iiiiiiiiiiiiiiiiiiii

呆然としかつ絶望してる俺を心配して外見とは似合わないさわやかな声で俺を心配してくる。

なんかとてもシュールだ。

これが凶暴な声で凶暴な口調だったのなら俺は迷わず逃げるなり戦うなり何らかの行動を起こせただろう。

しかしこれは無い
ボデー
体はいい

全てにおいて凶暴さを表している

衣装もいい

猟奇的さを表していて恐怖に陥る

だが

だが

その声はダメだろおおおおお

いやその声自体はいい

だがその見た目でその声は駄目なんじゃないかと僕は思う
思わざるを得ない

しかも凶暴できな口調じゃなく（凶暴的な口調も駄目だと思うが）
心配するような口調は見た目の違和感をさらに感じさせる。

例に出すなら硬派でも何でもない金髪でそこらかしこでカツアゲで
もしてそうな外見をした奴がとても美しい声で敬語を使い、犬猫を
かわいがっている。

違和感だらけだ。

内面には内面なりの外見

外見には外見なりの内面が必要だと俺は思う。

しかもロボットなら思い通りに内面と外見を決められる。

AIも設定できるし操縦だとしてもふさわしい人間がつけばいい
それが無理だとしてもあらかじめAIや操縦者を決めていればそれ
に基づいて設計すればいい。

ようはあれだ

俺が言いたいのは

外見と内面を調整しろと言うことだ

なんかもうあの声のせいで気が抜けた

今ならたぶんあのロボットも直視できるだろう

と俺が顔を上げ目を開けた瞬間

「ぎゃあああああああああああああああああああああ
あああ」

ロボットは俺の顔の近くに顔を近づけていた。

駄目だいくら気が抜けてもあの見た目は駄目だ

顔に近づいてるせいで歯であろうドリルがギョングョンいつて今にも顔を削られそうだ。

さらに少しだけ顔を傾かせているせいで首に噛みつかれそうだし血まみれの手術衣がなんかもうそれをさらに際立てている。

あれ

ふと疑問に思った。

その手術衣についてる血って誰の血
そう思った瞬間俺の意識は途切れた。

それはだめだろう（後書き）

冬休みももう終わりそうです。

実際は一ヶ月に一回を目標にしていたのですが冬休みということもありこんな早くに投稿することができました

数少ない読んでいただけるみなさんありがとうございます。

たぶん次の投稿は2月上旬になると思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7315p/>

能力ーcodeー

2011年10月6日01時49分発行